

取組分野	評価指標		目標値	策定時	現状値	目標達成率	指標評価	事務局総括	委員会評価	評価理由	
			(R12年度)	(R4年度)	(R6年度)	【※1】					
I-1 社会的つながり	自分が健康だと思ふ人の割合		83%	79.6%	84.0%	101.2%	◎	コロナ禍以降一時減少傾向だった地域での活動は、コロナ禍以前の参加者数に戻ってきている。子どもや高齢者など各年代の居場所となりうる拠点が市内に点在しているが、維持・継続されるよう活動の担い手の発掘や育成などの課題がある。			
	地域活動参加の割合（65歳以上）		68%	64.7%	59.8%	87.9%	△				
II-1 栄養・食生活	朝食を週4日以上食べる人の割合（40～59歳）		82%	77.8%	78.9%	96.2%	○	食事・栄養に関する取組について、妊産婦や子どもに向けた講座から、高齢者を対象とした低栄養対策までそれぞれの年代に対して支援を行い、切れ目のない取組が実施できている。地域で普及啓発を担う食のボランティア（食改）は各年代への支援で重要な役割を持つが、青壮年期の新規入会者の確保が難しく、地域で長く活動できるような環境整備が必要である。			
	主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の割合		50%	41.5%	40.2%	80.4%	△				
	野菜を毎食食べる人の増加		50%	41.0%	41.4%	82.8%	○				
	30～60歳代男性の肥満者の割合（BMI25.0以上） 【※2】		30%	32.0%	37.3%	80.4%	△				
	40～60歳代女性の肥満者の割合（BMI25.0以上） 【※2】		17%	20.6%	24.7%	68.8%	△				
II-2 身体活動・運動	日常生活において1時間以上歩行と同等の活動を行っている人の割合（40～74歳）	40～64歳	男性	52%	48.2%	48.0%	92.3%	△	進行管理シートのとおり、各課の運動事業において、各取組目標を達成している。健康づくり課が開催する運動事業は高齢者の参加が大半であり、青壮年期への支援の強化が必要である。運動は個人で取組む傾向が強い青壮年期に対しては、講座受講後も自身で取り組めるような支援方法が求められる。また、年代問わず市民が主体的に取組み継続できる工夫が必要であり、健康意識の低い人も講座を受講しやすい体制を整備するほか、継続につながるアプリの導入等も検討する必要がある。		
			女性	55%	51.3%	51.6%	93.8%	○			
		65～74歳	男性	55%	50.9%	49.9%	90.7%	△			
			女性	59%	55.3%	56.1%	95.1%	○			
	運動習慣がある人の割合	40～64歳	男性	38%	34.2%	35.9%	94.5%	○			
			女性	35%	31.5%	28.7%	82.0%	△			
65～74歳		男性	53%	49.3%	50.3%	94.9%	○				
		女性	51%	47.1%	46.1%	90.4%	△				
II-3 こころの健康・休養	睡眠で休養が十分にとれていると感じる人の割合		78%	74.2%	74.9%	96.0%	○	関係各課で世代に合わせた自殺対策を実施し、切れ目のない支援体制を整備しつつある。より一層の支援充実を図るため、課題を抱える子どもへの支援や、就労者への普及啓発を強化する。			
	ストレスに対処できる人の増加		70%	66.0%	79.1%	113.0%	◎				
	ゲートキーパーの人数		3000人	1714人	2294人	76.5%	○				

取組分野	評価指標		目標値	策定時	現状値	目標達成率	指標	事務局総括	委員会 評価	評価理由
			(R12年度)	(R4年度)	(R6年度)	【※1】	評価			
Ⅱ-4 たばこ・ お酒	非喫煙者の増加	男性	83%	80.3%	81.2%	97.8%	○	喫煙防止教育は、学校から要望のあった依存症対策を盛り込み、受講者が自分の生活状況に合った取組を考えることができるような講座を展開している。評価指標である妊娠中の非喫煙者の割合は目標値に近い数値だが、出産後に子どもの年齢が上がるにつれて保護者の禁煙意識の低下があり、引き続き、妊娠～出産～子育ての支援において禁煙の重要性を啓発し、喫煙再開の要因となりうる育児ストレスの軽減につながる支援が必要である。		
		女性	97%	94.5%	94.9%	97.8%	○			
	妊娠中の非喫煙者の割合		100%	97.9%	97.8%	97.8%	△			
	20～64歳男性の1日飲酒量2合未満の者の割合		79%	75.4%	79.3%	100.4%	◎			
20～64歳女性の1日飲酒量1合未満の者の割合		67%	63.4%	78.3%	116.9%	◎				
Ⅱ-5 歯・口腔	3歳6か月児でむし歯がある幼児のうち重症【※2】の割合		15%	22.5%	23.9%	62.8%	△	妊婦歯科健診の勧奨や乳児期への歯科個別指導等の支援の充実を図り、3歳6か月児健診では虫歯がない幼児の目標値を達成している。むし歯がある幼児の重症者の割合はやや増加傾向にあるため、引き続き多様な機会を通じて啓発と実践的な指導を推進するなど、ハイリスク者支援が必要である。高齢者に対してはオーラルフレイルの啓発やハイリスク者への個別支援などを充実させることができている。		
	年に1度以上、歯科検診を受けている人の割合		52%	48.9%	33.9%	65.2%	△			
	歯間清掃用具を使用して口腔内のセルフケアをしている人の割合		35.0%	31.9%	54.1%	154.6%	◎			
	80歳（75～84歳）で20本以上自分の歯を有する人の割合		36.0%	32.6%	38.1%	105.8%	◎			
Ⅱ-6 感染症予防	小児の麻疹・風しん（混合・単独一期）予防接種率		100%	88.0%	86.3%	86.3%	△	麻疹風しん予防接種は9割近い高水準だが、感染症の蔓延防止のため目標値である100%を目指し、接種しやすい体制整備と適切な情報提供に努める必要がある。		
	高齢者インフルエンザ予防接種の接種率		55.0%	52.0%	45.9%	83.5%	△			
Ⅲ-1 生活習慣病・がん	特定健康診査受診率		35.0%	33.2%	35.2%	100.6%	◎	特定健診の受診率は、個別はがきの送付や電話勧奨、週末の集団健診などの工夫を行い目標値を達成した。全体の評価指標にある保健指導修了者割合や血糖有所見者割合は目標値達成には至らず、ハイリスク者支援も引き続き強化が必要である。がんの早期発見・早期治療のため、特に、女性特有のがん検診受診率向上と、働く世代や若年層の受診につながるよう、引き続き受診環境の整備を推進する必要がある。		
	特定保健指導修了者割合		19.0%	12.8%	18.0%	94.7%	○			
	血糖有所見者（受診勧奨判定値）割合【※2】		9.0%	10.1%	16.0%	56.3%	△			
	子宮頸がん（20～69歳）検診受診率		15.0%	10.0%	9.6%	64.0%	△			
	乳がん（40～69歳）検診受診率		25.0%	16.2%	16.2%	64.8%	△			
	大腸がん（40～69歳）検診受診率		10.0%	5.9%	5.4%	54.0%	△			
	精密検査受診率（大腸）		90.0%	82.4% (R3年度)	84.8%	94.2%	○			

【※1】 達成率の算出方法 現状値÷目標値（%）（増加を目指すもの）

【※2】 達成率の算出方法 目標値÷現状値（%）（減少を目指すもの）

指標評価基準一覧

評価区分	達成度	評価内容
◎	目標達成	目標値に達している
○	改善	目標値に達していないが、基準年の値より改善している
△	未達成	基準年の値と変わらないまたは低下している
—	評価できない	数値等が出ておらず評価できない

全体評価基準一覧

評価区分	評価内容
A	推進できた（達成率100%以上）
B	概ね推進できた（達成率80%以上）
C	推進できたが努力が必要（達成率50%以上）
D	推進できなかった（達成率50%未満）
E	事業の見直しや改善が必要